

二〇二三年一〇月一五日(参加者一四名)

祈りあるマリアの像へ秋しくれ	菜	々
聖壇へ彩窓洩るる春日かな	"	"
うすずみに霧立ちのぼる主峰かな	"	"
立ち並ぶ埴輪に秋思ありにけり	"	"
石畳仄と染めたる薄紅葉	わかば	"
万葉の碑に佇めば木の実落つ	"	"
破れ蓮池は修羅場と化しにけり	"	"
疎に咲いて秋バラ雨にうなだるる	こすもす	"
ピロードの色の褪せたる秋のバラ	"	"
走り根の苔に珠なす秋時雨	"	"
万葉碑めぐりて苑の秋惜しむ	つくし	"
大石に座して秋思の人となる	"	"
石仏にはりつく鳶の薄紅葉	小袖	"
巡拜の岨の細道薄紅葉	"	"
今年米湯立の釜へ投げ入れる	有香	"
口開けし通草をさげて句座の友	"	"
水亭の大磐石へ色鳥来	きづな	"
黄落と紛ふあえかな秋の蝶	"	"

万葉の恋歌の碑に秋思憑く	ぼんこ
ガラス窓涙走りす秋の雨	よし子
塚の蟻せわしなげなる秋天下	よう子
池塘の木葛をまとひて立ち尽くす	はく子
聖堂の四方の彩窓春日射す	満天
葛の葉のなだれ落ちたる水際かな	"

定例会会みの選

二〇二三年一〇月一五日(参加者一四名)